

平校 天野學人投

非常

勉强

身體

~~~~~

廢娼に就て

金五郎

廢娼建議案といふも

總會を通過したからに

婚の實現が――十年後

至二十年後かその時期

らないが——兎に角感

には當然實現さるべき

を私は信じてゐる。

か、恐るゝをせしむるは

の惨酷の上もない肉

言はなしかるを証して

\_\_\_\_\_

100

めて置くに限る、おそこの家門口に立つてどん  
 れは天險を四方にひかへた戸を叩いた  
 要害、萬一の場合には將軍「おい頭、ちよいと起きて  
 を迎へて徳川の社綬を安し「くんな」  
 江戸を突いて来る敵を牽制 音五郎はもう寝てゐたが  
 することも出来る、と考へ此の聲に眼を覺して起き出  
 て甲府城を新撰組でかためして来た  
 たいが、た委せあるか如何「誰だい！ 順八か、何だい  
 にと建議した、幕府は良い今時分火事なら板木の音か  
 ところへ眼を付けたとあつて直ぐ駆け付けるんだ、た  
 てその請をいれ將軍御朱印がそうでもなさそうだ、た  
 の据つた裁可狀を勇に下げ屋敷の急用でも出来たのか  
 渡した名義は甲州鎮撫隊と「順八ぢやねわよ頭、私だ  
 いよのであるが、これは實「野郎奴、又何處で遊びやが  
 際新撰組を信任して許可し野郎奴、又何處で遊びやが  
 たちのではない恭順の意をつて文なしの空つ尻だもん  
 表するに付て最も邪魔にだからいつも傳で馬を引つ  
 なるのは此の一隊である、張つて来やがつたんだらう  
 危険なること爆裂彈に等し厄介な野郎だな「吐き乍ら  
 い人物の寄合ひを手近かに音五郎は戸を開けた、手燭  
 置いたならそんな什學をしの灯影に映る人影は火消し  
 出か解れ介に思つてゐた矢羽織に袴をはいて大小をは  
 の如き厄介に思つてゐた矢羽織に袴をはいて大小をは  
 先、勇から建議があつたのいた立派な武家である

でこれを幸に甲州へ追ひ拂つたのであるとは知らぬ新をして「ど、ど、どなた様  
 撰組の面々、何れも大得意で」  
 で腕を鳴らしてゐた、愈々  
 明後日が進發と定つたその  
 晩向と思つたか梅は勇に暇  
 を申し受けて上野を出た、  
 行先は市ヶ谷田町の音五郎  
 つまり私は公娼を廢止し  
 た結果として當然襲来すべ  
 き弊害を忍んでまでも彼等  
 龍の鳥を大空の下に放して  
 やりたいといふことには賛  
 成だが社會の安寧維持とか  
 保健衛生と言ふやうなもの  
 を對照としての廢娼理由だ  
 つたら大反對だ  
 それより近頃非常な勢  
 ひを以て増加しつつある私  
 娼の跋扈は縣會議員諸君が  
 縣會座で獅子吼して呉れど  
 ままでなく一足お先に廢娼  
 の氣運を造りつゝはる半面  
 を物語つて居るではないか  
 ようが第一俺にや解らね

「たや」と怪げんそんな顔  
 「頭、俺だ、梅を忘れちや  
 いけねえやな、」  
 笠をどつて突き出した面  
 を窺くや否や音五郎は愕然  
 としてそりかへつた  
 「やつ！ 梅！ 梅！ 梅かつ」  
 音五郎は手を引張る様に  
 して梅を座敷へ上げた  
 「ま、何と云つてい、か胸  
 が滅茶苦茶でさつぱり譯が  
 解らねえ、どうしたつてん  
 だ、一休……冗談ぢやねね  
 せ本當に人を馬鹿にしやが  
 つてどの位心配したか知れ  
 やしね、せめて手紙の一  
 本位よこして呉れたつてよ  
 からうぢやねえか死んだか  
 ままでなくお知らすによ、そ  
 の氣運を造りつゝはる半面  
 ようが第一俺にや解らね



御試食なご  
**太席**  
 新年  
 大小宴  
 ◎座敷  
 割

平町田町  
**高久病院**  
 電話五一三番

診察無料  
 如何なる重患でも直ちに癒る三丁目  
 の大谷へ御出下さい  
**大谷時計病院**  
 院長博士敬白  
 電話一九番

ハチ  
**蜂**  
 艶で  
 やかに  
 健こ  
 やかに

「蜂印」金鼠標酒、酒造り  
 業のおおめに依り、日つ  
 終に蜂、今後、蜂印  
 めます。なほ市面にある  
 は其偽造してありますが  
 必ず蜂印を御試飲を願ひま

いましてか

公の鳥料理!!!

相變らず  
末廣を  
御利用下さい

廻り女中入用

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店

和洋銅鐵 釜屋商店

金物問屋

諸橋久太郎

電話 九番一三九番  
振替貯口金座東京一〇九五六番

確實敏捷は人の生命なり

ブドウ酒 シュ

肉體美こそ 特に御婦人方の生命とす

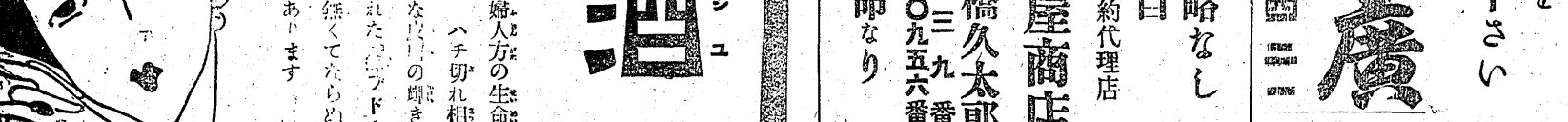
ところのものとあります ハチ切れ相な御婦人

な肉體 薄紅を拂いた如な皮の輝きこそ

所存ならしむべく願ひましたブドウ酒

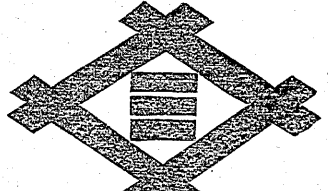
御利用のため 人前に無くてならぬ榮光

のすべてを蒐めたものであります



時、一三言  
所 弊店階上

主婦之友秀會製  
新 春 的 側 陳 列 會



銘仙 モスリン  
錦紗 御 召  
御用命下さい


町 平  
服 吳 井 三  
店

電燈より接續してすぐ寫る  
家庭活動寫眞機

パテーベビー活動寫眞機  
映寫器 八〇、〇〇  
撮影器 六五、〇〇

フヒルム一本二、〇〇  
生フヒルム一本一、〇〇  
市内はお伺ひして御覽に供します  
御申越次第カタログク進呈

平町二丁目  
パテーベビー社  
代理店  
西村屋藥舗  
電話三番



近藤利兵衛商店 代理店  
神谷傳兵衛商店 代理店

—55—

\_\_\_\_\_



所謂藝術ヲ爲のブローレリ立上つて吠え上るゝと聞いた。藝術なる御迷論を地で見時、混沌老ひす石城の一角せつゝある時、もうろう性にいれい朋を見ろを思はせむ。吾々の階級的憤怒をていて見ても如何に形式の文藝に組織立て未來の光明によつて大衆の憤怒を突きたるの自由を俺達の家ををさまたげたと譯る。再た草原なる文藝誌出で各此を見るに及んで大きな失望造りあげたる藝術。オルガナび言ふブローレリや藝術

無軌道は其の中間的態度をやな言葉だに持つた彼等よりブルジョア化するこそは其の武裝計除によつて立れども更に深く俺達の苦し學性由かをいかになくみをより苦しむか私達は遠ぼむせてゐるから彼等を見つめよう。

プロレタリア的無軌道

唱歌演奏會 平町第三  
 一小學校外八校では來る月十二日內鄉村第一小學校に於て兒童ノ唱歌演奏會を催す筈である

になつてゐる

校長役員會  
 廿三日平第一で  
 石城郡小學校長會役員會は

窺ひ知ることが出来  
云ふ粹人であるが此の  
月元旦からの宴會攻  
閉口してゐる相だ

小名  
平

出張  
電話  
五六四〇

番番所社